

## 第7章 まとめ

本共同研究では、全国の道路橋の定期点検結果等を網羅的に分析したことで、耐久性の信頼性向上を図るためには浸入させない、浸入しても滞留させない、より抵抗する、見つけて直せる・是正できるという4つに分類できることを提案した。また、鋼道路橋及びコンクリート道路橋に新たに望まれる構造細目や仕様に関して、既存資料の調査や検証実験を実施することで構造細目の配慮事項の例を示すことができた。

そして、耐久性の信頼性向上における配慮事項について、収集した既往の研究等を基に設計時の参考となるディテール集を作成した。本資料は巻末に添付するが、橋梁形式や架橋条件によっては、必ずしも最適なものとならない場合もあると考えられる。参考とするにあたっては、本報告書の主旨を理解して適宜修正を加えるなど対象橋に対して適切な設計となるよう注意が必要である。本報告書を参考とすることで従来よりも設計の基本理念がより高いレベルで実現し、対象橋に固有に求められる定性的な要求事項について合理的に実現できることを期待する。